

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービスの意義をスタッフ全員で確認して、事業所独自の理念を作っています。	○ 現理念を掲げて三年目を迎える。地域密着型サービスとしてや地域や利用者のニーズ、状況の変化も認められていますので今年度末に次年度に向けて、スタッフ全員で理念の作り変えを考慮して行きます。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議時、また関わりの振り返りのときも、理念を意識し確認しあうようにしている。	○ 理念を掘り下げてスタッフ全体で話し合い、理念を具体化していきたい。今年度は新しい理念にたどり着きたいと思っています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	職員はもちろん、来荘者の皆様や利用者の皆様にもよく目に触れるように掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日常的に散歩や買い物に出かけ、お会いすると気軽に挨拶をしている。見学やボランティアの受け入れは、積極的におこなっている。	○ もっと地域の方々が気軽に来てくださったり、中学生が下校時等少しでも立ち寄ってお話するなどできたらいいな、と思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	外部評価の結果はスタッフに報告し、改善に向けての検討や実践に繋がる為に努力している。	
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	会議では、事業所からの報告とともに参加者からの質問、意見、要望を受け双方向的な会議となるよう配慮している。現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。	
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	毎月のホーム広報、なかよし便りを直接市役所担当者へ持参している。不明な点、教えて頂きたい所等を訪問や電話にて教えて頂いている。	○ 市役所担当者もなかなかお忙しいようで(運営推進会議には参加せずとの事)積極的な連携はなかなか難しいところです。
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	地域福祉権利擁護事業については、対応が必要と思われる利用者については支援に結びついている。	○ 成年後見が必要なケースがまだ無く、またスタッフ全員勉強不足で、支援できる体制が万全とはいえない。
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	各ニュース等の事例があれば、ミーティング等を利用し検討したり虐待防止の意識に向けた取り組みを行っている。	○ 職員による虐待の危険を早期に見つけたり、今後高齢者虐待防止関連法の理解を深めいきたいです。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたり、時間をとって利用料金の件や起こりうるリスク、利用者の状況変化に伴う退所に関する事等他、詳しく説明し、同意を得るようにしている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	福祉オンブズマン月2回不定期に来荘され、意見の聞き取り実施されている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月なかよし便りを発行し、行事の様子や写真を見ていただいている。ご家族来荘時は、状況の報告当を行い、体調の変化や受診当があった際は電話にて報告をおこなっている。金銭管理は、毎月入出金票をご自宅に送付し、入金の際はご家族にサインを頂いている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を実施し、意見・交流の場を設けている。	○ 今後は、職員は席をはずして家族同士で話し合う時間を取り、皆さんの意見や苦情を承りたいと思っております。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会、職員会議等で意見を聞くようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の急な休み等に、スタッフの勤務交換を速やかに行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットのスタッフは固定化している。離職でやむを得ない場合は、時期や引き継ぎの面でスムーズに行えるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での学習会や報告に参加している。外部研修にはなるべく参加し、学習できるようにしている。又、研修後は全体会議で発表し全職員が知るようにしている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上十三地区の協会と県協会に加入し、学習会や交流を持つようにしてい。	○	前年度は実施したが、今年度はまだ交流事業を行っていない。他グループホームの見学や相互研修会を行い、他事業所のスタッフの意見等や対応を見、参考にしていきたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる		○	使用規模、少人数の職場で利用者と密接な関わりもあり、ストレスがかかりやすい。日常的にスタッフのストレスや悩みの把握に努めて行かなければ成らない。ストレス解消の取り組みは、今後の課題。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来ており、利用者やスタッフの業務や悩みを把握している。職員の健康状態も大事なので、年2回の検診で体調の観察に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労や、サービスの利用状況など、落ち着いてゆっくと話を聞くようにしている。本人は勿論、家族との信頼関係を作り上げることを心がけている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い状況等を伺い、相談をくり返す中で思いをくみ取り、必要なサービスに繋げるようにしている。早急な場合は、他のケアマネージャーに相談・連携し、必要に応じて他のサービス期間に繋げている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームを見学してもらう事から始め、すぐ利用と成る場合は、馴染みの人や家族とともに支え安心感を持ってもらう。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段から利用者に漬け物の漬け方や、切り方等でおしえてもらう場面が多い。また、そういった場面が多く持てるようにセッティングや声掛けに配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を細かく伝える事で、協力関係が築けることが多くなっている。	○	利用者の情報をきめ細かく、ありのままに伝える事の難しさにも直面している…
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、行事に家族を誘ったりよりよい関係の継続に努めている。面会等の来荘時は、本人と家族の会話がとぎれないように潤滑油になるように心がけている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から利用している美容室に行ったり、希望があれば途切れないように支援している。	○	交友関係については、なかなか続かないのが現状です。今後は、手紙や電話等を利用してみようと思案中です。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団の中で、利用者の中の善し悪しに配慮しながらも、利用者が孤立しないように支援してい。毎日のお茶の時間は、シススタッフも一緒に多くの会話を待つようにしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先にお見舞いに行ったり、他の施設へ移られた方には、合いに行ったりしてる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、家族より情報を得るようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りや、家族、知人等の面会時など少しずつ把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者ひとり一人の生活リズムを理解すると共に、生活・心理面の視点や、今できることに注目しその人全体の把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、アセスメントを含めスタッフ全員で意見交換やカンファレンスを行っている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフが情報を確認し、ご家族や本人の要望を取り入れつつ、機関が終了する前に見直し、状況の変化した際には、終了する前であっても検討見直しを行っている。介護計画の状況・効果を評価し家族にお渡ししている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、バイタルや排泄等身体的状況(必要時は、食事や水分量等も)および日々の様子等を記録している。いつでもスタッフが把握するように、勤務開始前の確認を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	早期退院への支援、医療処置を受けながらのホームでの生活の継続	○	現行のホームで、ディサービスやショートステイが可能となれば、より多機能性を生かした柔軟な支援が出来ると思います。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		○	本人と地域との様々な接点を見出し、周辺施設への働きかけを行って行きたいと思います。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	利用者の選択肢を増やし希望を叶える為に、介護保険以外のサービスを利用できるように考慮して行きます。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	困難事例や事業所内で解決出来ない問題について、今後地域包括支援センターと協議して個別支援を考慮して生きたい。又、運営推進会議に職員の参加を呼びかけて行きます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医に成っています。基本的にはご家族同伴での受診になっていますが、不可能な時にはスタッフのみで対応するようにしており、重要事項説明時にその旨確認している。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	市内に精神科医が2カ所あり、かかりつけ医の継続もしくはご家族のご希望の病院にて、受診・相談している。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言をもらっている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁にスタッフが見舞うようにしている。また、家族とも情報交換をしながら、回復状況等速やかな退院支援に結びつけている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応指針を定めている。状況の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い安心した終末期を過ごして行けるように取り組んでいる。	○	医療機関との連携をもう少し密に連携を図っていきたい。(地域で、入院可能な医療機関が少なすぎる)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等を知らせる等の情報提供を行う。馴染みのスタッフが面会に行くなど氏、リロケーションダメージを最小限に食い止めるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折りに、スタッフの意識向上を図りながら確認しあっている。	○	声掛けや各対応については、いかんせんスタッフの精神状況や利用者の状況等によって、完全にこれで良しと言う事が無い。日々ミーティングや全体会議等で改善にむけ、検討している。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声掛けをしている。意思疎通が困難な方には、表情を読み取ったりスタッフの押しつけをしない。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きなように昼寝を楽しんだり、散歩等やひとり一人の状況や思いに配慮しながら対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の服装の選択は、可能な方は本人の希望でおこなっているが、なかなか反応は少ないのが現状です。	○	利用者の状況でか、パーマや毛染め等の希望を示す人があまりなく、あれば直ぐに対応したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
52	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
53	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	ADLの低下で、排泄の介助が難しく成ってきているのが現状。
54	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	ADLの低下で、入浴の介助が難しく成ってきているのが現状。
55	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額手元に持っている方もいます。出来ない方もいますが、買い物外出した際は、自分での支払を支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時は、買い物やドライブを行っている。屋外への散歩は常時自由にしている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「温泉に行きたい」「寿司が食べたい」など、本人が行きたいところについては、行事計画をたててスタッフの勤務を調整する等しながら支援してい。場合によっては、家族の協力もお願いすることもある。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出すことを欠かさない。希望時は電話使用は自由。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めておらず、ご家族の都合の良い時間帯に面会できるように配慮している。他の利用者に気兼ねなく過ごしてもらえよう、スペースを整え居心地の良い空間作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送りで、ケアを振り返り自覚を促している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	いざと言うときに不安…対応や訓練を何度も繰り返して行きたい。
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生活していくうえで起こりえるリスクは、ご家族に具体的に説明している。	○	話し合いは1回きりでなく、状況変化に応じて家族の理解を得られるように繰り返し行っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況は1日2回のバイタルチェックを行い、記録をつけて様子を見ている。食欲や様子等の変化があり特変に気づいた際は、直ぐ対応に当たっている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルを整理し、スタッフが無いよう把握できるようにしている。服薬時は、間違いの起こらないように氏名等を確認し、きちんと服用できているか確認している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の一環として適度な運動はもちろんだが、自然排便がスムーズにいくように自家製ヨーグルト作り、毎日摂取している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、必要に応じてスタッフが見守ったり介助をおこなっている。ひとり一人の力に応じた歯磨きのお手伝いをしている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容を記録している。おおまかに、利用者の摂取状況を把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	起こりえる感染症について学習して、予防対策に努めている。また、家族の同意を得たうえで利用者とスタッフのインフルエンザ予防接種を行っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・ふきんの清潔を心がけ、定期的に消毒を実施している。台所水回りの清掃・点検を定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気の玄関になるように、生け花をいけたり玄関先にプランターを置いたりしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けや配置は、生活感や季節感のある物を活用しながら整えている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や外庭に椅子等を置き、ひとりで過ごしたり、仲の良い利用者同士くつろげる空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	小さな物だが、写真や使い慣れた日用品が部屋に 持ち込まれている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	全室内床暖房にて、快適な温度な調節している。 トイレの臭いは、換気扇と脱臭剤で悪臭が広が らないように注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	車椅子は身体特徴に合った物を購入し、使用して いる。利用者の状態に合わせて、必要な場所に手 すりがついたり一律のバリアフリーでは無いが生 活の場として安全確保へ配慮している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	本人にとって何が判りにくいのか、どうしたら判 りやすくなるのかを考えて、試したり状況に合わ せて環境整備に努めている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しめ る環境がある。外庭にベンチを置いて、涼んだり 日向ぼっこができるように工夫している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)